

# 日本戦歿学生の手記 きけ、わだつみの声

～映画出演者・河崎保氏講演とDVD上映の集い～



学徒出陣 70 年の今、出演者河崎保氏が語る平和への思い。  
1950 年製作の映画「きけ、わだつみの声」の主な出演者としては最後の生存者となる河崎保氏を招いての講演と上映の集い。  
わだつみの世代である河崎氏が、「国防軍創設」「自衛隊に海兵隊的な機能を」などという現況をどのように見ているか、平和への思いを語ります。

2013/ **10/27** (日)

14:00 ~ 16:30

※映画出演者・河崎保氏のお話について映画上映

**横浜平和と労働会館 3 階会議室**

横浜市中区桜木町3-9 (JR 桜木町駅より徒歩 5 分)

【主催】NPO 法人神奈川県日本ユーラシア協会

【参加費】 会員 700 円、一般 1000 円 【定員】 先着 40 名

【お申し込み締め切り】 10 月 24 日 (水)

【参加お申し込み】

**Tel/Fax : 045-201-3714**

**E-mail : eurask2@hotmail.co.jp**

【当日連絡先】 Tel : 080-6700-5301 (関戸)



【映画情報】 監督■関川秀雄／製作■マキノ満男／脚本■船橋和郎／撮影■大塚新吉／音楽■伊福部昭／出演■伊豆肇 原保美 河野秋武 信欣三 杉村春子 英百合子 沼田曜一 花沢徳衛／1950 (昭和 25) 年 東横映画作品

「死んだ人々は選ってこない以上 生き残った人々は、何が判ればいい？」ジャン・タルジューの詩 (渡辺一夫訳) を掲げて開幕するこの映画が公開されたのは 1950 年 6 月 15 日。朝鮮戦争勃発の迫る時期だった。前年の 10 月に刊行された『きけ わだつみのこえ』は、大きな感動をもって迎えられ、戦後ベストセラーのひとつとなるが、その映画化された作品として、「珠玉の反戦映画」との世評を得た。

## 講師略歴 ■ 河崎 保 (日本ユーラシア協会常任理事・演出家)

1948 年の東宝争議の後レッドパージとなり、北京に渡航。1952 年、自由日本放送開設に参加。1953 年、第 4 回世界青年学生平和友好祭 (フカレスト) に参加。1954 年からモスクワ放送局に勤務。岡田嘉子は同僚であった。後ソ連国立映画大学に学び、記録映画「モスクワの日本人」を製作、受賞 (岡田嘉子も出演)。ソ連邦マスターオブアーツ。1969 年帰国後、山本薩夫「戦争と人間・完結編」、黒澤明「デルス・ウザーラ」ソ連ロケの協力監督を務めた他、秋田雨雀・土方与志記念青年劇場でソ連の戯曲「グッド・ラック」(V・ローソフ作) を演出。いずみたく主宰のミュージカル劇団「フォーリーズ」に演出・演技面で協力、ミュージカル「歌麿」のアメリカ公演に参加。現在、日本ユーラシア協会各支部、文化団体、劇団、その他で、ロシアをはじめ旧ソ連事情、ツーリズム、文化、演劇等のテーマによる講演活動を行う。出演作品:「雲は天才である」、「不毛地帯」(1976)、「山びこ学校」(1952)、「わが一高時代の犯罪」(1951)、「裸女海底に死す」(1951)、「暴力の街」(1950)、「殺人者の顔」(1950)、「わが愛は山の彼方に」(1948)

